令和４年１１月　　日

　府中市長　高　野　律　雄　様

府中市自然環境調査員会議

会長　内藤　林三

**報告書(案)**

　府中市自然環境調査員会議は平成２４年１２月に発足し、令和２年１２月からは第５期の活動が始まり、２年が経過しました。この間、当会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う一部事業の中止などの影響もありながら、引き続き自然環境の保全の推進を図るための様々な活動を行ってきました。

本市の自然環境の現状を把握するため、毎月１回、武蔵台公園において実施してきた植物、昆虫、野鳥に関する自然環境調査については、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら継続して実施し、調査の連続性を確保することができました。この自然環境調査は、生物多様性の保全に繋がる取組みとして、今度も継続していく必要があると考えております。

また、第５期からは、これまでの調査活動の成果も生かして東京農工大学吉川准教授に作成いただいた、武蔵台緑地の植生保全ガイドラインに基づく緑地の保全活動にも取組み始めました。

　市民に自然環境の保全の大切さを啓発するための活動にも引き続き取組み、市内各地において、自然観察ウォーキングツアーや親子昆虫観察、身近な木の実やツルなどを使ったリース作り等、市民一人一人に府中の自然に触れてもらい、また再発見してもらえるイベントを開催したほか、市立小学校が実施する総合学習の時間への講師派遣などの支援も実施しました。

　このほど、第５期２年間の任期を満了するにあたり、その活動を通した意見を依頼事項に沿って報告します。

記

**自然環境の保全の推進を図るため、次の活動に取組むこと**

**（１）市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握に関すること**

・生まれも育ちも府中市で、小さい頃から広報に掲載されている情報を活用して

様々なイベントに参加していました。環境に関するイベントも勿論参加していましたが

実際に自分が運営団体側になると知らないことだらけで、見たり体験したりできたことは

　特別な経験になりました。祖父が市役所の職員だったため、市の仕事とはどういうものなの

　か知りたい気持ちもありました。どのように保全・管理・普及啓発されているのか、その一

　面を想像できるだけのものを21～23歳の間に知り得たことを嬉しく思います。

・調査の結果、多少樹木の増減があるので、例年通りの調査で良いと思う。

・この2年間の調査で、少しずつ減ってきている植物があるので、その植物を

どう保護したらよいか、これからの課題だと思っています。調査が1ヶ月に1回なので

花の咲いている時期が見られなかったりするので、もう少し調査員の情報交換ができたら

良いのですが。

・府中市の自然に恵まれた武蔵台公園は本当に動植物の生息に恵まれ、そんな中で

活動出来る事が幸せに思います。時には電化製品、家庭ごみ等が捨てられている時があり残念に思います。でも私達、環境問題の仲間で、これからも武蔵台の管理に努力して行きたいと思っております。

・「植物管理ガイドライン」により、保全のあり方が示されました。市としても

貴重な地域であることから、市として積極的に関わってほしいと思います。

・武蔵台公園においては、ナラ枯木、老木の伐採、敷地の整備等、公園としては

明るくきれいになって来ましたが、日光が当たるようになり、新しく出て来た植物も有りますが、調査当初あった貴重な植物が無くなってしまいました。伐採する時には調査員も協力

しながら行ったらどうでしょうか。（群生植物地に伐採木や笹等を置かないように）

・調査時間外に市民の方が見たというフクロウと小さい羽でしたが身体の一部である羽を残して存在を証明したツミは生物多様性の頂点をなす種類です。ナラ枯れ対策により枯死木の伐採が進んだ場合、どのように変化して行くのか調査を重ねることが大事であり、参加して行きたいと思います。

・武蔵台公園での自然環境調査を毎月行ってきたが、継続した調査を行うことにより、多くのデータが蓄積されたと感じている。この活動を継続し自然の変化について調査して行きたい。今後は武蔵台公園だけでなく、多摩川河川敷の調査も行い、市内の自然環境を把握していきたい。

・武蔵台公園は、前期末から今期にかけて、ナラ枯れのコナラの伐採、ササ刈り、トウネズミモチ、シュロ、ノハカタカラクサなど不適切な外来・逸出種の駆除等、様々な手入れが行われた。このような状況下での植物の調査結果は、まず木本は種数には大きな変動は見られなかった。草本ではミズタマソウなどが消え、オカトラノオ、メドハギなどが新登場するなど、種と個体数の変化が見られた。今回の手入れによる環境変化の影響は今後の注目点である。当緑地の自然環境の理解と保全のために綿密な調査と適正な植生管理が続くことを願う。

・武蔵台公園を維持管理する上で、丈が延びた笹や草を刈り取る事も必要なのでしょうが、その結果、見通しがよくなり、今迄、沢山いたカマキリ等が鳥たちに見つかりやすくなり、個体数を減らしている様に思います。卵鞘も少なくなり、子どもにかえるカマキリも数を減らしています。反対にスズメバチを見る事が多くなりました。

・武蔵台公園での調査が開始されて丸10年が経過しましたが、この区切りの良いところで、これまでの総まとめをしっかりして、次の周期に入りたいと思います。

　武蔵台公園だけの調査では、府中市全体を把握することができないため、アンテナを

張り巡らし、ここ以外の情報を得て、調査ができたらと思います。その意味では、今年の６月・７月に実施しましたツミの繁殖状況報告を提出でき、一歩近づくことができました。

　一方、ツバメの集団ねぐら入りの市民観察会が開催されず、残念でしたが、来年こそ開催の方向での準備を希望します。

・はじめは、植物調査グループにて活動を始めました。

その後、調査員委員のバランスにより、昆虫調査グループに編入しました。自然の野生植物は季節ごとに生育種がちがって、春の野生植物でシュンラン　アズマイチゲ　アマナ　タチツボスミレ　カンスゲ　ギンラン　キンラン　ニリンソウ　タマノカンアオイ　ホウチャクソウ　フタリシズカ　カラスノエンドウ　ジロボウエンゴサク　ハルジオン　キランソウ　タツナミソウ　マムシグサ等を観察しました。当初は個人的に植物の名前を調べながらの調査でした。種類が多く区分が難しく　数多くを学習していきました。里山の植物は貴重なものが多く、普段見かけられないものが山の中に多く生息しています。ボランティア活動で、里山保全の活動をしながら草刈り等を継続して行った結果、貴重植物を発見　マヤラン、オオバノトンボソウ東京都貴重直物種指定が毎年出て来るようになりました。　同じような環境の浅間山とは、植物に少し内容的に違いがあり、浅間山にはあるが武蔵台にはないものもあります。（上記の種類）

　武蔵台の緑化推進を図るために、府中市自然環境調査員の協力、努力の結果　荒れ始めた武蔵台緑地の自然放置から手を入れて、赤松の生息周囲の草刈りを行い、ボランティアの協力も含め、良い緑地環境を作り、市民の憩いの緑地となるように努力しています。今では近隣市民の散歩道としての緑地になっています。　生息する動物は観測できていませんが、野鳥は春のウグイスが結構永く　とどまって雑木林の中で鳴声がし、市民の散歩の心を和ませています。又、他種の鳥も集まってきています。これらのことを努力管理することにより、里山の維持管理が保たれると感じます。現在の問題点は、武蔵台緑地の周囲環境で崖線下は、小学校、中学校が並び、古い警察病院跡地が将来の計画が提示されないで現存しており、この部分が里山の形成を阻害しているように感じます。また、緑地の総合医療センターは現在も改造中で、緑地の一部になっています。この部分は東京都の敷地で府中市の一時委託管理区域であるようですがここには多くの小動物、小鳥、昆虫が生息している（塀で囲まれている）素晴らしい水も豊富にあり、素晴らしい自然公園になるように思われます。費用も掛かることではありますが、東の浅間山と同様に西の武蔵台緑地として、国分寺史跡

公園と接続して、市民の憩いの場所を形成したいと願っています。

　この林の造形は、現在農工大教授吉川先生の指針により良い里山つくりを目指しています（武蔵台緑地植生管理ガイドラインによる）　まずは「アマネササ」を大きくしないような努力（定期的に必要部分を残し除去）、　保全・管理針は下記を基準とする

1.崖線の地形を生かす

2.遷移の進行をおさえる

3.特定の「種」でなく樹林を守る

4.持ち出さない.持ち込まない

次に調査員の人員バランスもあり、昆虫班に変更、昆虫は初めてのため、グループの先輩に教育を受け観察をすることになったが、相手は動いて、気配を感ずると見えなくなる空中に飛んでいくなど、大きさもあり確認するのが難しい。草むらや地面に居る昆虫の観察は多くの時間が必要で、気象条件にもなやまされ、先輩諸氏の記録を見ると、良くもここまで観察で来ていると感心させられています。カメラを抱えて実態をとらえることの難しさを

痛感しています。見た感じではこの昆虫が何なのかわからないのです。経験者の先輩に頼り名前を確定してもらっています。その後、昆虫図鑑を入手して調べましたが、同じような種類があり、区別がいまだにつきません。もう少し時間がかかります。この武蔵台だけでも数多くの昆虫が生息しているので、もっとじっくり時間をかけて観察する必要性を感じます。

子どもたちの昆虫学習場所には、素晴らしい里山であると感じています。

・武蔵台公園の自然環境調査を毎月定期的に実施しており、調査データの蓄積もされています。自然環境の把握という観点で成果はあったと思いますが、府中市域の生態調査という点では、少し心もとない点があると思います。私は、府中野鳥クラブの一員として、府中市域の野鳥観察を続けていますが、今期も、鳥類に関して、見るべき生態の発見がありました。それは、菖蒲池でのツミ、カルガモの営巣、郷土の森博物館園内でのアオゲラの営巣、武蔵野の森公園でのバンの営巣、多摩川でのツバメのねぐら入りなどがあげられます。

武蔵台公園だけでなく、府中市域の生態情報を、様々な団体と連携などして、もっと広く継続的に集めて収集することが必要と思います。府中市域の生態の多様性を、市民にアピールし、自然環境保存などの普及啓蒙に結びつけることができたらと考えています。

・武蔵台における自然環境調査は令和4年で10年になる。担当している昆虫観察については、10年間の通年記録をまとめている。

　初期には過去のデータとの比較を考えていたが、過去のデータを抽出できず比較はできていない。また平成28年度で依頼しているデータの利用方針が出ておらず中途半端な報告になりそうである。

・武蔵台緑地調査

最近整備した場所を中心に、今迄調査していない場所まで調査を広げる。新たな発見が期待される。絶滅が危惧されている種、希少種の保護・育成が必要。この活動を他の場所に拡大できないか。今後の課題。

**（２）自然環境の保全のための普及啓発に関すること**

・想像していたよりずっと、広報などを見てイベントに参加したい市民は沢山おられるのだと驚きました。調査員の皆様は大変、博識でおられるので、こういった活動に際しては、特定の地域・分野に明るい市民との連携は欠かせないものなのだと感じました。

コロナ禍なこともあり、参加者の方々は皆イベントを非常に楽しみにされていました。初めましての方と一緒に歩きながら、目に触れた自然のことをお話しできる機会は、そう無いので、楽しく思いました。環境の扱いは難しく、徐々に置換しながら最も良いと思われる方向へ導いていく、極めて地道な取り組みであると存じますが、こういった活動やデータの蓄積こそが非常に有用なものであるということを改めて感じました。今後の活動の継続と活発化が望まれます。2年間、本当にどうもありがとうございました。

・ウォーキングツアーは同じコースが続いているので、新しいコースを検討してほしいと意見あり。

・ウォーキングツアー等で、市民の方々にも動植物により興味、関心を持って頂き

環境に左右される動植物をどう護っていけば良いか、一緒に考える場となれればと思っています。

・これからも色々おこなわれるイベントに多くの方が参加して頂ける事、願っております。イベントでも参加して下さる方にも楽しんで頂き、私自身も楽しく、一緒に作品づくりをする事が出来、これからも頑張らせて頂きます。

・一人でも多くの人に（少数でも実施している旨のPRも大事）、関心を持って参加できるよう、引き続き継続を希望します。

・毎年の事ですが、自然観察ウォーキングツアー、木の実を使ったリース作り等

自然の恵みを感じる事のイベントは参加者の評判も良く、回数を増やしてほしいとの意見も有ります。一考しても良いのではないでしょうか。特にレンリン草保護区は植物観察地として貴重な場所なので、多くの人に見てもらいたいです。（多摩川にはまだ貴重な動植物がまだ有るようです）

・巣箱作り、ウォーキングツアーにより自然環境に興味をもってもらう手助けを

微力ながら、できればと考えております。

・市内の各小学校に総合学習支援として、自然環境保全に関する普及啓発を行ってはどうだろうか。

市内の公園を使用して、四季折々に自然観察会を開催し、市民に自然の豊かさを身近に感じて欲しい。

・府中環境まつり、自然観察ウォーキングツアー、緑化講習会などは、今期はコロナ禍の影響で一部は中止あるいは縮小、オンライン開催などとなった。実施されたイベントでは、いずれも参加希望者は多く、市民は自然や生きものとの触れ合いを求めていることがわかる。これら行事は啓蒙活動として重要だが、まずは楽しくなければなるまい。委員の皆さんに期待するところ大である。

・ウォーキングツアーで説明して下さる方の声が参加して下さる方達にもっとしっかり聞き届けられるとよいのにと思っています。付き添いの私達は、声かけして集まってもらう様に努力していますが、外でのマイクには限界があるのでしょうか。

・イベントへの参加以外に、自然環境の保全に個人的には多々参加していますが、全体として高齢化が進みマンパワーが不足しているのが実情です。何とか一般市民への呼びかけも必要かと感じます。

・市内の銘木百選の木の確認したが、なくなっていた木もあった。

東郷寺までの崖線沿いを歩いてみたが、ハケの改造が多く人工物で固められるか

新しく石垣が組まれていた。昔が失われつつある。

これからの府中市の環境保全活動の推進のためにも、目を引く役立つ行事が必要です

「みどりと水の活動」が過去にありましたが、水と緑のネットワーク「ウオーキング

マップ」（府中市生活環境部環境政策課編集）を利用し、（市内の観光や、史跡、など

自然環境調査員が確認調査した内容です）市内の区域ごとに住民の皆さんに案内をしてもらう観光ウオーキングを実行したら良いのではと思います。区域内の関心が高まり、府中市の環境の理解が深まるのではないでしょうか。

【場所】

1. 季節を中心（桜では東郷寺）
2. 蓮の花では（郷土の森）
3. 夏の崖線カミソリ（西府崖線）
4. 歴史を学ぶ（古戦場）

【調査員活動内容】

1.１時間くらい町内のゴミ拾い活動を実施するよう呼びかけ、実践する。

2.環境保全のための外来植物除去の活動を実践する。

3.環境まつりでは自然環境に良いものをみんなで討議し、配布する。

4.自然環境調査員の成果を写真等でパネル展示する

以上気が付いた内容報告です。

・今年は多摩川の八中前のワンドのヨシ原に５００羽を超えるツバメがねぐら入りしました。自然観察会（ツバメの集団ねぐら観察会）は２０１５年から８年間も開催されていません。「府中市生物多様性地域戦略」のパンフレットに記載されている「ツバメの集団ねぐら観察会」を、来年こそは再開できるようにしたいと考えています。

ツバメの集団ねぐら入りを、市民の方々に見て頂き、ツバメのねぐら入りが将来に渡って見られるように、その自然を保護していくような活動に結び付けられれば良いと思っています。また、ワンド付近の保護を河川管理している省庁に、府中市の取組みとして働きかけ、保護区域にしてもらうことはできないかと考えています。

・環境まつりはこの2年参加していない。

ウォーキングツアーもコロナ禍の影響もあり、縮小しての開催であった。

多摩川のウォーキングツアーは府中市の自然観察の1つのモデルと考えられ2年に1度程度は開催されたい。

　同時に、河川敷において、多摩川の自然に親しむ会として、一般市民が保護活動を行っており、それに参加し自然環境の保全に努めている。レンリンソウ保護区は活動者の高齢化に伴い活動が困難を極めている。この辺りのご支援も、今以上にご配慮頂きたい。

・ウォーキング参加者は歩くことを目的としている人が多い。高齢者も多く、低年齢層に魅力のあるコース・方法の検討。

ナラ枯れの後継樹育成のような親子体験型のイベントの検討。府中市の現状を知り、どう対応するか、単発ではなく、長いスパンの取組みはできないか。

　以上